



佐織中だより

～ 多様な「幸せ」実現 ～

愛西市立佐織中学校

第30号

令和6年1月12日

(発行者) 佐古 達哉

♪ 本年もよろしくお願いたします！

今週の火曜から、令和6年（2024年）の学校生活が始まりました。本年も、本校の教育活動に変わらぬご理解ご支援をいただきますようお願いいたします。

新年を迎えるにあたって、きっと多くの人が「良い年にするぞ！」と思いを新たにしたことと思いますが、いざ年が明けてみると、元日から能登地方を中心とした地震・津波による甚大な被害が伝えられたり、翌日には航空機の大きな事故が発生したりして、胸中に複雑な思いが渦巻く中で「学校再開」の日を迎えた人が多かったのではないのでしょうか。

そんな学校再開初日の9日（火）朝に実施をした全校朝礼では、今回の能登地震で被災した教え子と私との



やりとりの中から、佐織中のみんなに学んでほしいこと、思いを巡らせてほしいことについて話をしました。冬休み明け初日にもかかわらず、いつも以上に真剣に私の話を聴く生徒の様子からは、今回の震災についてそれぞれに思いをもって過ごしていること、そして他者の状況を想像して思いを巡らせる皆さんの優しい気持ちが伝わってくるようで、困難な状況が多く伝えられている中で始まった今年の学校生活が充実したものになっていく期待が大きくなる朝礼となりました。

朝礼後からは、1・2年生は実力テスト、3年生は通常の授業を開始しました。

学校再開から1日が過ぎた10日（水）の授業やテストの様子をのぞいてみると、1・2年生はかなり早く解答が済んでしまい、テスト時間を持て余している様子の方も多くいて、休み中にも勉強にしっかり取り組んでいた人が多くいたことが伝わってきました。3年生は、志望校によってははいよいよ入試が始まっている子ちらほら出てきて、授業の望む雰囲気もかなり引き締まっていました。そんなピリピリした状況の中でも、音楽では中学校生活最後の「合唱」の練習に和気あいあいと（と言っても、曲がかなり難しいようで、悩ましい顔・頭を抱えている子も多くいるようですが…）取り組んでいたりと、技術では仲間と協力しながら「プログラミング」の学習に取り組んだりして、こういった「学校の日常」が入試本番に挑む3年生の子たちの「癒し」に、少しでもなってくれたらと願います。



日本全体が重い空気の中で始まった令和6年（2024年）ですが、苦しいときや大変な時こそお互いの助け合いを大切にしつつ、いろいろな人の想いや状況を想像する思いやりをもちながら、今の自分たちができること、やるべきことに全力で取り組むことで、よりよい1年にしていきましょう！